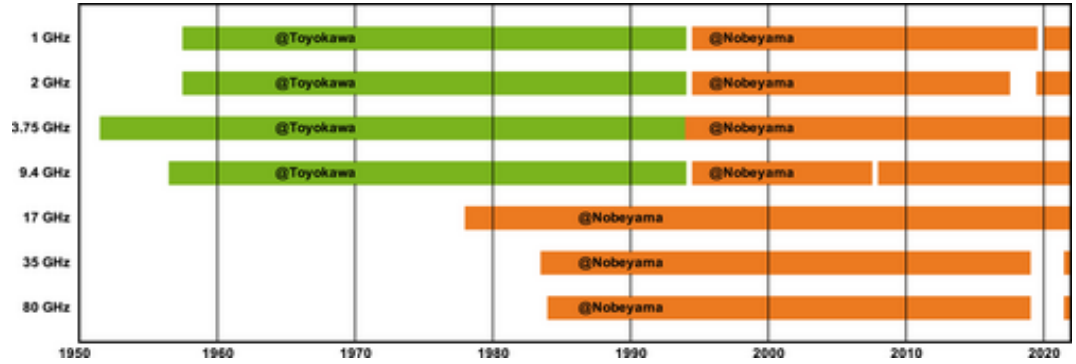
#		記入欄
1	計画名称	**野辺山強度偏波計 (Nobeyama Radio Polarimeters: NoRP)**
2	代表者名	下条圭美
3	代表者所属	太陽観測科学プロジェクト(併任、本務はアルマプロジェクト)
4	関連する主な研究者コミュニティ名（あれば）	太陽研究者連絡会
5	現在の計画のステータス	運用段階
6	第5期中期計画期間中(2028-2033年度)の予想されるステータス	2027年度末に運用終了を想定しており、第五期中期計画期間中での運用は想定していない。
7	計画のScience Goal (計画の核心をなす学術的問い)	太陽(恒星)活動は、どのように長期変動するのか？
8	計画のScientific objectives（計画の研究目的）	太陽マイクロ波強度を太陽周期を超えてモニター観測することにより、長期変動を捉える。
9	計画が実施するScience investigations（何をどこまで明らかにしようとするか）	マイクロ波多周波による太陽長期変動をとらえ、太陽周期活動研究および地球への影響（地球磁気圏・超高層大気等)を研究するための基礎データを提供する。
10	計画の実施期間（既存の計画の場合は過去の期間も含む）	2023年11月にて満72年
11	計画全体の予算規模（総額，もしくは年度毎の額）	年150万円＋人件費(再雇用職員1名, 常勤教員[Efforts 20%], データ処理1名[毎日の処置の仕事量はかなり小さいので、処理をよく知る野辺山宇宙電波観測所事務員2名に交代で行って頂いている。])
12	上記の中で期待する国立天文台の資金（総額，もしくは年度毎の額）	年150万円の予算と現在の人員を2027年度まで
13	国立天文台に期待する役割	昨年度から今年度にかけて、防衛大学校にて新たな太陽マイクロ波強度偏波計が建設されている。また来年度から本格的な受信機システム構築および試験観測が開始される予定である。NoRPと防大偏波計にて2~3年共同観測を行い、十分なクロスキャリブレーションを行った後、NoRPの運用終了を希望している。
14	資金調達方針 (5種類から数字で選択)	2
	1. 既存の大規模学術フロンティア促進事業費, 2. 運営費交付金 (既存計画，新規計画の検討活動・基礎的開発を含む), 3. 新規 大規模学術フロンティア促進事業への提案, 4. 国立天文台以外の実施機関(たとえば大学や JAXA 宇宙研)予算, 5. 外部資金あるいは競争的資金	
15	実施期間にわたる計画の簡単な線表 (画像を添付)	

NoRPの低周波部(1~9.4 GHz)は、1950年台に名古屋大学空電研で観測が開始された。これらのアンテナは1994年に野辺山太陽電波観測所へ移管され、現在に至っている。高周波部(17~80 GHz)は。1970年台後期に野辺山にて開発・建造が行われ、現在でも観測を継続している。上図内の空白期間は、機器故障や混信悪化による観測停止期間を示している。

NoRP観測の詳しい歴史は、Shimojo & Iwai 2023 (https://doi.org/10.1002/gdj3.165)を参照ください。